

## 人々に よりよい100年 これからも ～民生委員(方面委員)制度創設100周年～

府民児協連では、100周年記念事業として記念大会(5/21大阪城ホール)や広報・PR活動、調査研究事業などさまざまな取り組みを実施しています。

### 方面委員制度発祥の地

民生委員制度は、大正6年に岡山県で発祥した「済世顧問制度」と大正7年に大阪府ではじまった「方面委員制度」を起源としています。

平成30年度は、「方面委員制度」創設から100年となる記念すべき年です。

### 地域の身近な

#### 相談相手として

民生委員・児童委員は、法律により厚生労働大臣から委嘱された無報酬のボランティアです。全国共通の制度として、どのまちでも活動しています。地域住民からの生活上の心配ごとや困りごと、医療や介護、

子育ての不安などの相談に応じます。そして、その課題が解決できるよう、必要な支援への「つなぎ役」になります。また、定期的な訪問などを通じて、高齢者や障がい者世帯、子どもたちの見守りを行っています。

子どもや子育てに関する支援を専門に担当する主任児童委員も活動しています。

### 孤立している人々への

#### 支援のため

府民児協連では平成29年度に調査研究委員会を組織し、ヒアリング調査と事例検討を実施しました。誰にも相談できず、地域で孤立している人を早期発見するためにどうすればよいかなど、支えあい・助けあう地域づ

くりを進めるために民生委員・児童委員の役割や求められる取り組みについて協議を重ね、報告書としてとりまとめました。今年度は報告書を活用し、活動のノウハウやポイントを共有しながら地域特性に応じた実践につなげていきます。報告書はHPでもご覧いただけます。

### 5月12日は

#### 「民生委員・児童委員の日」

100周年を迎える本年は、大阪府・大阪市・堺市が共同して府内全域で、民生委員・児童委員の活動を府民にPRする街頭啓発キャンペーンを実施します。

### 府内の民生委員・児童委員の活動状況(10年前と現在)

	平成18年度	平成28年度
委嘱者数(人) (4月1日時点)	7,823 ⇒	8,000
活動日数(日)	873,494 ⇒	897,033
訪問活動(回)	947,139 ⇒	1,064,565
相談・支援(件)	223,905 ⇒	162,382
調査・実態把握(件)	93,134 ⇒	96,792
行事・会議への参加協力(件)	190,220 ⇒	183,208
地域活動・自主活動(件)	309,044 ⇒	364,389

(大阪市・堺市を除く)

### これから、どんどんPRしていくよ!

100周年を盛りあげていくために、そして民生委員・児童委員をもっと知ってもらい、役割を理解してもらうきっかけとなるよう、キャラクターをつくりました。



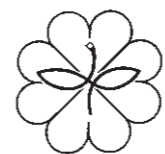
大阪府版ミンジー

ミンジーは、集団生活を営む中で、みんなで協力して子育てをするペンギンをモチーフに、「地域における支え合いをめざす」「社会全体で子育てを応援する」活動に取り組む姿を表しています。



### 民生委員・児童委員のマーク

幸せのめばえを示す四つ葉のクローバーをバックに、民生委員の「み」の文字と児童委員を示す双葉を組み合わせ、平和のシンボルの鳩をかたどって、愛情と奉仕を表しています。



日時  
5月12日(土)  
11時15分  
AJINK  
なんばウォーク(くじらパーク)高島屋正面入口前、マルイ前(御堂筋側)



大正、昭和、平成と時代が変わるにつれ、地域住民が直面する生活課題もさまざまに変化しています。しかし、いつの時代にも民生委員・児童委員は「良き隣人」として人々に寄り添った活動を行ってきました。「誰もが笑顔で、安全に、安心して暮らせる社会」をめざし、これからも、民生委員・児童委員は、住民の立場に立った相談・支援活動を行っていきます。

### 社協と民児協「協働アピール」を発信

大阪府市町村社会福祉協議会連合会と大阪府民生委員児童委員協議会連合会は、4月18日、地域共生社会の実現に向けて、協働アピールを締結しました。



榎谷佳純会長(市町村社協連合会) 石原欽子会長(府民児協連)

わたしたちは、地域全体の見守り支援にとりくみます!

昨年度、両団体で協議を重ねた結果、アピールの策定に至ったものです。

福祉委員や民生委員・児童委員が、地域の困りごとをともに受け止め、情報共有の場をもち、協働して地域の人々を見守っていこうというねらいで、今後、各地域での実践につなげていきます。※「協働アピール」は府社協HPに掲載しています。

### オリックス宮内財団 子ども食堂へ応援プロジェクト 平成30年度も募集開始!

感じながらも、資金面の課題から立ちあげられなかった委員会等が、本プロジェクトの設備費助成を受けて食堂を開設することができています。

財団は、今後さらに子どもたちが安心して過ごすことのできる居場所づくりの取り組みを応援するために、今年度も本プロジェクトを実施します。

募集期間は平成30年4月1日～6月30日です。※市町村社会福祉協議会を通じての申請が必要です。

### 「誰もが安心して暮らせるまちづくり」をめざした「住民主体の生活支援サービス・活動実践事例集」を作成!

少子高齢化やライフスタイルの変化等により、社会的孤立、買い物難民、老老介護など、生活課題を抱える人が増えています。

こうした生活課題を解決するために、同じ地域の住民同士の助け合いや、関係機関・団体と連携した住民参加によるさまざまなサービス・活動が府内各地で行われています。

府社協では、これらの実践が、府内により一層広がることをめざし、「住民主体の生活支援サービス・活動実践事例集(13団体の取り組みを掲載)」を3月に作成しました。

例えば、自治会内のボランティアグループによる病院への通院や買い物支援を目的にした移送サービス、日常生活のちょっとした困りごとのお手伝いを有償で行う活動、誰もが集える居場所



を通じた食事支援・生きがいづくり等、いずれも地域に根ざし身近な困りごとの解決に向けた、住民発の助け合い・支え合いを基本とした実践を紹介しています。

実践に至る背景やプロセス、活動内容、工夫等に触れながら、実践者の思いを形にする数多くのヒントが盛り込まれています。

これから新たにチャレンジする人、してみたいと考える人たちの参考になれば幸いです。

実践事例集は、府社協・地域福祉部HPからご覧いただけます。ぜひ、ご活用ください。

実践事例集の作成には、一般財団法人高津成和会の助成金を活用しています。

オリックス宮内財団(以下、財団)は、平成28年度から府内で活動する子ども食堂(以下、食堂)運営団体を対象に、『子ども食堂応援プロジェクト』を実施しています。これは、食堂の運営費や開設拡充に必要な設備費の助成を行うもので、地域における食堂の立ち上げ支援や運営の安定化に大きく貢献しています。

助成対象の多くは地区福祉委員会(以下、委員会)です。普段の見守り活動から、朝食を抜いたり、孤食状態にある子どもたちの存在を認識。食堂の必要性を

### 寄付つき OSAKAボランティア手帳

ありがとうございました。

30年3月末現在

寄付額「226,040円」

「OSAKA ボランティア手帳」(府社協発行)は、昨年度、府内初・赤い羽根共同募金の“寄付つき商品”として販売しました。1冊につき10円を寄付に充てようと頒布したものです。

この取り組みを通し、手帳の長年の愛用者を含め寄付に共感する人の輪が、府域に大きく広がりました。

みなさんの寄付は府域の社会福祉のために役立てられます。

たくさんのあたたかいお気持ちを、ありがとうございました。

We support



募金

